

副 本

令和4年度 第1回吉川市総合教育会議録

令和4年7月4日（月）

令和4年7月4日 令和4年度 第1回吉川市総合教育会議

開会の日時	令和4年7月4日 午後1時30分
閉会の日時	令和4年7月4日 午後4時5分
会議開催の場所	市民交流センターおあしすセミナールーム4
<p>会議に出席した構成員の氏名</p> <p>吉川市長 中原 恵人</p> <p>吉川市教育委員会 教育長 戸張 利恵</p> <p>教育長職務代理者 中島 新太郎</p> <p>教育委員 小林 照男</p> <p>教育委員 鈴木 真理</p> <p>教育委員 荒井 一美</p>	
<p>構成員以外の出席した者の職・氏名</p> <p>○市長部局の出席者</p> <p>政策室長 浅水 明彦</p> <p>政策室副室長兼政策室主幹 中村 喜光</p> <p>○教育委員会事務局の出席者</p> <p>教育部長 中村 詠子</p> <p>副部長兼教育総務課長 岡崎 久詩</p> <p>副部長兼学校教育課長 馬場 重弘</p> <p>生涯学習課長 岩上 勉</p> <p>学校教育課学校支援担当主幹 兼少年センター所長 進士 有美</p>	
傍聴人 1人	
<p>会議に付議した事項</p> <p>(1) いじめによる重大事態対応（重大事態対応シミュレーション）について</p>	

○中村教育部長 ただいまより、令和4年度第1回吉川市総合教育会議を開会する。本日は、「重大事態シミュレーションのふりかえり」について、意見交換をしていただきたいと考えている。最初に校長会研修の「重大事態シミュレーション」をご覧いただいた後、ミーティングルーム4に戻り、意見を交換していただく。

次に、本日の会議録の署名委員については、「吉川市総合教育会議運営要綱第5条第3項」の規定により、中島教育長職務代理者、小林委員にお願いする。

- 校長会研修の見学終了後 -

○中村教育部長 それでは、これより進行については中原市長にお願いする。

○中原市長 シミュレーションを見て、教育委員の皆さん、市長部局の職員、それぞれに思うことがあったと思う。一言いただきたい。

○中島教育長職務代理者 今日、校長先生からたくさん話をいただいた。このような研修は、大変役立つ良いものではと感じているが、違和感を覚える部分もある。校長先生がいじめの問題を研修する場で、市長、教育長、教育委員、市職員に見られており、管理されていると感じるのではないか。もし、このような研修を行うのであれば、学校、教育委員会、行政が連絡をとって信頼関係で結ばれることが非常に重要と考える。例えば、中学校区のグループの協議のところに、校長と行政が入ることで、お互いにどのようなことができるのかについて、意見を出し合うことができたのではないのかと感じた。校長としても意義を感じることができ、そのような話し合いであれば、実施することを理解できる。

○中原市長 このシミュレーションの位置付けを精査する必要がある。前日も市長部局と連携したものでないと意味がないこと話をしたと思う。位置付け、やり方の精査が必要と感じる。

○鈴木委員 校長先生は、やりづらいだろうと感じた。活発な議論をされている中で、その意見を聞くことができなかつたことが残念であった。校長先生と意見を交わすことができればよかった。また、保護者の立場としても意見できればなお良かったと感じた。

○荒井委員 校長先生は、見られている中で本音の意見を出すことができたのだろうかと感じた。

○小林委員 やる事には意義がある。ただし、シナリオがきちんと出来すぎており、先生

は余裕をもって事前に考えることができたのではないかと感じる。そうした場合には、シナリオの出来を検証するのみとなってしまう。シナリオの出来を見る視点だとすれば、想定外の視点を含めるべきと感じる。シナリオの検証であれば、この会議で委員が集まる必要は無いと感じる。

○**中原市長** 重大事態の対応書を、皆さんで協議し、新聞記者にも意見をもらい数年前に作成した。教育部、学校で完遂でき、問題が起きないのであれば、市長部局との連携は不要ではないか。仮にそれを超えて何か起きた場合は市長部局との連携が必要で、その一番重い場面を想定して平成29年度に第1回目となるシミュレーションを実施した。そのような想定での実施に戻すのか、それとも教育部、学校のみでシミュレーションを実施していくことで良いのであれば、敢えて総合教育会議においてシミュレーションを行う必要はないと感じている。

○**中島教育長職務代理者** シナリオはあって良いと思う。実際のところでは、4時間で重大事態会議を開けるのか。学校は大変な状況にあることを考えると、学校と行政が協議を行うことで意義のある会議になると感じる。

○**中原市長** 市長部局が関わる場面はなかったと感じる。

○**浅水政策室長** シミュレーションのような事案が発生した場合、市長部局の関わりとしては、プレス対応の部分しかなかったと感じた。教育委員会が対応していくことを考えると、学校の中で完結するものと感じる。市長部局としてどのように関わられるかと考えた。

○**中島教育長職務代理者** 現職時代に、重大事態事案に対応したときがある。どのように発言すれば良いか一言一句を考える。子供の死亡事案などの重大事態は大きな問題であり、教育委員会のみで完結するものではないと感じる。

○**中原市長** このところ実施するシミュレーションについては、市長部局の関わりがほとんどない事例での実施なので、総合教育会議で行うことが必要なのかと感じる。

○**小林委員** シミュレーションをやったことで、万が一の対応で考え方を変えたほうが良いと気が付いたところもあると思う。シナリオを読むだけでは気が付かない部分を見て、気が付いた部分もある。例えば、市長部局の関わり方で、シーン1、2の担任の家庭訪問のシーンで、報告を受けて「そうだった」で終わってしまう。この際に、この報告が担任の主観が含まれているものではないか、正確なものであるかを検証しなくてはならない。

次に、市長が再調査を必要と認めた場合は、市こども福祉部に再調査チームが設置されるとされている。これが遅いのではないかと感じる。学校の動きに対して検証するためには、当初の早い段階から第三者委員が関わる必要があるのではないかと感じる。裏側の検証は、同時並行して動くべきではないかと感じる。

重大事態対策委員会の設置のタイミングでは、市の規定では自殺を企図したタイミングで設置するとしている。自殺であろうと事故であろうと最悪の事態を想定して、早い段階で動けるようにしたほうが良いと感じた。

○**中原市長** 最初に行った1回目のシミュレーションは過酷なやりとりをしたと思う。1回目のように台本に無いやり取りを交えシミュレーションを行うことは厳しいという校長先生の意見もあり、シナリオを基本とした今回の研修のような形となってきたと思う。私としては、1回目のようなシミュレーションを実施すべきと思う。そうすることで、市長部局が学校、教育と連携して対応すべき内容が見えてくると思う。校長先生の望む形が現在の形ということでよいか。

○**中村教育部長** 1回目の印象が強かったのではないかと感じる。今回の形は、去年の教頭会の研修方法が好評であり、今年は校長会で実施してみたいとの要望があったので、教育委員会として判断し実施したものである。来年も同じ形でとなるかは、今後、検討していくこととなる。

○**中原市長** 校長先生がこのやり方で研修を実施したい希望を踏まえ、企画しているものと認識している。仮に、これ以上負荷がかかる研修ということであれば、1回目と同じような形になると感じる。

○**中村教育部長** もし、校長先生に見てもらい危機感を共有してもらうのであれば、教育委員会の指導主事などが演者となり、実際に即したやり取りを実施しても良いと感じる。

○**中原市長** 保護者の発言が最初と変わった場合、警察から情報提供をなかなか受けられない場合、後から新事実が判明した場合など、そういう想定も実施した方が良いと感じる。

○**中島教育長職務代理者** どのような研修が良いか、校長先生と話し合っても良いと感じる。シナリオを作らず進めても良いと感じる。

○**中村教育部長** シナリオの検証となっていると感じる。条件設定をしっかりと設定してシナリオ無しでも良いと感じる。

○**中原市長** 総合教育会議ではなく、教育委員会のなかで検証していくことで校長先生に

負荷がかからないのではないかと。教育委員会のみであれば負荷がかからないのであれば、市長部局なしで実施することも一つではないかと。

- 小林委員** シナリオを準備するチーム、ロールプレイするチーム、見るチームなど校長先生のなかで役割分担しても良いのではないかと。シナリオにない突発的な事象に対応できるようにすると良いと感じる。
- 中島教育長職務代理者** 私から見ると、今日のような研修で十分であると思う。非常に大きな体験であると思う。校長先生も非常に勉強になったと思う。あやふやな状況、難しい状況をやらせる必要があるのかと思う。
- 荒井委員** シナリオのようなよりどころは必要であると思う。13ページにもあるが、例えば言葉がけなどについては、本当にそうであったのか、第三者の目線で検証することが必要と感じる。教育委員会など第三者の支援を受けることができる環境は、校長先生としてもありがたいと思う。
- 鈴木委員** このような研修会を続けることで対応力も向上すると思うので、今後も続けてほしい。本日の研修会を見ていて、もし、これが自分の子のことだとしたら、冷静な判断ができるだろうか考えていた。小林委員の意見のとおり、早めの段階で第三者委員会のようなものが立ち上がっているのであれば、専門的な人材が配置されていると思う。若しくは弁護士や心のケアをしてくれる方がいて校長先生と一緒に保護者の支援にあたる、そのような体制があると良いと思う。親からのうわさが広がるのは早いため、保護者会を開く必要はあると思う。そこに至るまでの経緯などを文書化することが必要と校長先生から意見が出されていた。文書化されていれば、冷静に言うべきことを確認することができると思う。
- 中原市長** 進士所長から説明あったが、どのように進めると良いと思うか。
- 進士学校支援担当主幹兼少年センター所長** 校長先生からの申し出を大事にしたいと考えた。昨年度、教頭会で同じようなやり方で研修会を実施した。シナリオがあることで安心して対応がすることができたと感じた。皆が見ている前で、研修することで本当に効果が上がるのかとの意見が出ていた。校長先生の中でも今回のような研修を受けたことのない方もいたので、このような形で開催した。
- 戸張教育長** 教頭会で実施した際に、非常に活発に意見交換が行われていた。その意見交換のなかで、生々しい現場での経験なども意見交換されていた。本日いただいた意見を参考にしながら内容をもう一度検証し、校長にも意見を伺いながら何が一番良いかを

考えていきたい。

○**中原市長** 委員の皆さんがシミュレーションを見て、意見できるような機会が必要とは思っている。ただし、その機会が総合教育会議であるかは、もう一度、皆さんで検討してほしい。いざという場合の文書確認などの支援が必要とするのであれば、市長部局は、その対応について練習することが効果的であるし、校長先生がプレッシャーを感じる中でシミュレーションを実施することが絶対とは考えていない。次回、研修会を実施するのであれば、そのあり方を皆さんで考え、実施してほしい。また、第三者委員のチームをどのタイミングで設置すれば、先生たちの邪魔とならないか、対立構造とならないかなどを踏まえ検討していきたい。

○**中島教育長職務代理者** 学校と教育委員会が表に立ち対応していくこととなるが、早い段階から市長部局が支援体制を整えてくれることで、校長先生の大きな安心感につながると思う。支援体制としていてくれることはありがたいと感じるはずである。

○**中原市長** そのような場面を想定した場合には、市長部局の支援については広報担当ではない。どのような人材が必要か今後検討していきたい。質問となるが、対策チームの弁護士は対策チームを作る時だけ出席してくれるのか。別の契約を結べば、日頃より支援を受けることが可能なのか。

○**中村教育部長** 前回までは情報共有会議で市長部局、教育委員会において情報を共有する機会があった。今回は、その場面が無かったので、そこが見えにくかったのではないかと感じている。

○**中原市長** 他に市長部局として支援できることは、どのようなことがあるか。

○**戸張教育長** 例えば、ご家庭が福祉的な課題を抱えている場合、そのような情報を、あらかじめ校長が知っているのと知らないのでは、学校の対応が大きく変わると思う。

○**中原市長** 例えば保護者が福祉的な課題を抱えていた場合、その支援が可能な人材や情報の提供が必要ということか。

○**戸張教育長** そのとおりである。

○**中原市長** 学校が知らないその家族の個人情報があれば、それを学校に提供するなどが必要ということか。

○**小林委員** 要保護の情報については、保育園の場合、提供されているが、小学校の場合は、提供されないのか。

○**進士学校支援担当主幹兼少年センター所長** 要保護である事実は把握しているが、詳細

な情報は知らない。何かあって初めて担当課に確認して把握することとなる。

○**中原市長** 今後は、その点について、市長部局も意識して対応にあたりたい。本題に戻るが、シミュレーションに対して何か意見はあるか。

○**小林委員** シーン1で、第一報の際に、マスコミがその時点で動いているという想定で動いたほうが良い。マスコミは、どの学校かを確認するために、各学校に電話をいれると思う。マスコミが電話を入れる可能性があることを学校内で意思統一しておくが良いと思う。SNS対策については、誰か責任者を置いて、情報が拡散していないかを確認することが必要ではないか。また、マスコミに伝えるべき内容、誰が伝えるかなどを明確にしたほうが良い。発言集などの作成も必要と感じる。シーン2では、保護者の発言が変化することが想定される。このため、時系列で保護者発言を把握しておくことが必要と思う。ホワイトボードへの板書を行い、情報の見える化を図ると良い。

○**荒井委員** シナリオの内容は、この流れでよいのではないか。

○**鈴木委員** 保護者への情報の拡散スピードは非常に速いので、この対策はきちんと行うべきと思う。

○**中島教育長職務代理者** 小林委員から良い意見が出された。学校はそのような状況下では手一杯である。教育委員会で記録係を置くなどの対応が望ましいのではないか。それからSNS対策についても教育委員会で対応してはどうか。

○**中原市長** 即答は難しいと思う。どうあるべきか今後、検討をしていく。

○**戸張教育長** 教員一人ひとりが当事者意識を持ち、日頃からの観察と指導を率先してもらいたい。

○**中原市長** まず一つ。前回の皆さんとの意見交換のなかで、加害側への教育的支援とサポートの重要性が議論されていたと思う。議会においても意見をいただいている。平成29年に皆さんのお力をいただきながら作ったいじめの関する基本方針の改定を考えている。

二つ目。教育長をはじめ、教育委員会の理解をいただいて、15歳以上の義務教育以外の不登校、ひきこもりの若者の支援を行うこととなった。学校を卒業してから30歳くらいまでを若者として定義し、支援のあり方を議論していくこととなった。今後、内容がまとまった際には、委員の皆さんからも意見をいただくことを考えているので、協力をお願いしたい。

○**中村教育部長** 以上で令和4年度第1回吉川市総合教育会議を閉会する。

吉川市総合教育会議要綱第5条第3項の規定により署名する。

令和4年10月27日

教育長職務代理者 中島 新太郎

教育委員 小林 照男